

地域における重症化予防プログラム推進体制の構築に関する検討

研究分担者 後藤 資実 名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科 講師

研究要旨

糖尿病性腎症重症化予防プログラムに 96 自治体が参加し、現在実証を行っている。参加自治体の活動を支援するため各自治体代表者が参加するワークショップが開催され、プログラム実施における問題点を共有するとともに課題解決に務めた。また、地域医師会員および基幹病院の支援を得るため、愛知県内各所において本研究の紹介および研究成果について講演を行った。愛知県版糖尿病性腎症重症化プログラムの立案に参画し、地域における連携体制の確立に努めた。

A. 研究目的

全国 96 自治体が参加する糖尿病性腎症重症化予防プログラムの実証支援を行い、同プログラムの検証を遂行するとともに、平成 28 年度事業の結果について検討を行い、平成 30 年度事業の評価方法について検討する。

分担者が活動する愛知県を中心に、地域医師会員及び基幹病院医師に対して講演会等を通じて糖尿病性腎症重症化予防プログラムを紹介するとともに研究成果を伝え、地域における連携体制構築を支援する。参加自治体代表者を集めたワークショップを開催し、プログラムを実際に遂行する上で問題となる点について情報共有するとともに、その解決にむけて意見交換を行う。愛知県版プログラム立案に参画し、愛知県における同プログラム普及に助力する。

C. 研究結果

名古屋市および知多半島地区の医師会が主催する講演会に演者として参加し、糖尿病性腎症重症化予防の意義および具体的な方法について講演を行った。参加医師とともに尿アルブミンの測定が病期の把握に重要であること、コ

ンセンサスが得られている生活習慣への介入、薬物治療などの方法について講演を行い、糖尿病性腎症重症化予防プログラムに関心を持っていただいた。

研究への参加を検討している自治体代表者に対し平成 30 年 8 月 1 日に説明会が開催された。平成 28 年度事業を実施した際に課題とされたデータ収集の煩雑さを解消し、参加自治体の事業立案、分析に役立てられるように研究班が準備した支援アプリケーションソフトについて紹介された。参加者からは支援ソフトの利用に際して想定される問題点について意見を収集し、本格運用にむけ有用な情報を得ることができた。平成 31 年 1 月 15 日にワークショップを開催し、指導医との連携および個別保険指導に役立てられるツールとして研究班が開発中のカンファレンスシートを紹介し、利用者の立場から使い勝手を向上させる貴重な意見を収集した。また、事業評価をより簡便に実施し易くすることによりより適切な事業計画の立案が可能となることを目的として事業評価サマリーシートを提案し、利用者の立場からみた意見を収集した。

愛知県担当者とともに愛知県版プログラムの立案に参画した。愛知県版プログラムの作成にあたり、かかりつけ医が容易に専門医に相談できる体制を地域で構築することに重点を置き、協力の得られた糖尿病および腎臓病専門医の所属する医療機関名簿（愛知県糖尿病性腎症重症化予防プログラム推進医療機関名簿）を作成し公表した。

D. 考察

本研究遂行には参加自治体の多大な協力、およびかかりつけ医である医師会員、基幹病院専門医相互の連携体制の構築が重要である。ワークショップにより現場の課題を収集するとともに研究班員が中心となり多方面に働きかけることにより、これまでのところ本研究は円滑に遂行出来ている。一方でデータ収集において、その手順がとても煩雑であることが課題とされたため、その一助となるアプリケーションソフトを研究班にて開発中である。データの回収率を上げるとともに参加自治体の事業評価が適正に実施されることにより、より効果的な重症化予防が実現できると考えられた。

E. 結論

糖尿病性腎症重症化予防事業を実施する体制の確立についてはある程度成果を挙げている。一方で協力自治体のデータ収集及び事業評価について、開発中のアプリケーションソフトが寄与できることを期待したい。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 著書

2. 学会発表

緩徐進行1型糖尿病患者(SPIDDM)における予後

予測因子の検討 和田絵梨、尾上剛史、岡田則男、小林朋子、後藤資実、有馬寛 第61回日本糖尿病学会年次学術集会

IoT(Internet of Things)システムの糖尿病療養指導への応用 小林朋子、後藤資実、尾上剛史、村本あき子、加藤綾子、栄口由香里、野村恵里、武藤繁貴、八谷寛、津下一代、有馬寛 第61回日本糖尿病学会年次学術集会

高齢2型糖尿病患者において骨格筋体重比は筋力と相関する 栢本あずさ、柴田篤志、佐藤克成、門野泉、後藤資実、有馬寛 第61回日本糖尿病学会年次学術集会

行動変化への準備状態に合わせた運動指導によって行動変容がみられた2型糖尿病の一症例 佐藤克成、栢本あずさ、柴田篤志、門野泉、後藤資実、有馬寛 第6回日本糖尿病療養指導学術集会

糖尿病治療のこれから 後藤資実 第92回日本糖尿病学会中部地方会

免疫チェックポイント阻害薬投与で発症したACTH分泌低下症の2例 伊藤雅晃、岩間信太郎、後藤資実、有馬寛 第28回臨床内分泌Update

3. 論文発表

1. Yasuda Y, Iwama S, Kiyota A, Izumida H, Nakashima K, Iwata N, Ito Y, Morishita Y, Goto M, Suga H, Banno R, Enomoto A, Takahashi M, Arima H, Sugimura Y. Critical role of rabphilin-3A in the pathophysiology of experimental lymphocytic neurohypophysitis. J Pathol 2018;

2. Tochiya M, Hagiwara D, Azuma Y, Miyata T, Morishita Y, Suga H, Onoue T, Tsunekawa T, Takagi H, Ito Y, Iwama S, Goto M, Banno R, Arima H. Chemical chaperone 4-phenylbutylate reduces mutant protein accumulation in the endoplasmic reticulum of arginine vasopressin neurons

in a mouse model for familial neurohypophysial diabetes insipidus. Neurosci Lett 2018; 682:50-55

3.Ogawa K, Suga H, Ozone C, Sakakibara M, Yamada T, Kano M, Mitsumoto K, Kasai T, Kodani Y, Nagasaki H, Yamamoto N, Hagiwara D, Goto M, Banno R, Sugimura Y, Arima H. Vasopressin-secreting neurons derived from human embryonic stem cells through specific induction of dorsal hypothalamic progenitors. Sci Rep 2018; 8:3615

4.Kobayashi T, Iwama S, Yasuda Y, Okada N, Tsunekawa T, Onoue T, Takagi H, Hagiwara D, Ito Y, Morishita Y, Goto M, Suga H, Banno R, Yokota K, Hase T, Morise M, Hashimoto N, Ando M, Kiyoi H, Gotoh M, Ando Y, Akiyama M, Hasegawa Y, Arima H. Patients With Antithyroid Antibodies Are Prone To Develop Destructive Thyroiditis by Nivolumab: A Prospective Study. J Endocr Soc 2018; 2:241-251

H . 知的財産権の出願・登録状況

1 . 特許取得

該当なし

2 . 実用新案登録

該当なし

3 . その他

該当なし